

府中町あるきと歴史散歩

〔第25回〕

文化財としての考古学の資料⑧ 古墳時代の資料

府中町にある古墳はいずれも古墳時代後期に造られたものである。上岡田地区一帯に点在する数基の古墳と八幡地区に一基あつたことが知られている。しかし、これらのうち上岡田地区の上岡田古墳と道隆寺東古墳を除いてはすべて盗掘、あるいは造成工事などで完全に破壊され、跡形もなく消滅した。

上岡田古墳（城ヶ丘1番街区）は、道隆寺の北西約40mの所にあって、古墳の周囲は完全に住宅に囲まれ石室の一部が残る。南側に口を開けた横穴式石室の構造を持つが、現在は壊され、奥壁に近い部分を残すのみで、長さ約2m、幅1.5m、高さ1.5mの大きさで、封土の大部分は流失しており、全体の約95%が破壊されていくことになる。

上岡田古墳（城ヶ丘1番街区）は、道隆寺の北西約40mの所にあって、古墳の周囲は完全に住宅に囲まれ石室の一部が残る。南側に口を開けた横穴式石室の構造を持つが、現在は壊され、奥壁に近い部分を残すのみで、長さ約2m、幅1.5m、高さ1.5mの大きさで、封土の大部分は流失しており、全体の約95%が破壊されていくことになる。

1930年（昭和5年）に河田義郎氏が発掘調査を行い、土師器の壊が発見されている。金環は径24mmの銅製の輪に金メッキをしたもので、耳飾りとして使われたものである。須恵器は主に祭器として、お供え物を盛った容器であり、土師器は主に食器として使われた。これらの資料は最近、旧所有者の道隆寺（野中良範氏）から寄贈され、現在は府中町立歴史民俗資料館に展示されている。

副葬から、農民層から逸脱し、この地域を支配した有力者を葬ったものであろう。

上岡田古墳は副葬品の一部が現存しており、その時代背景を知る上で学術的価値があり、また府中町の古代の人々の生活と社会を知る上でも貴重な文化財として保存活用し、後世に伝えていくため、町道からの見学用通路の確保および封土が流出しないように特殊な硬化剤で処置し、説明板と案内標識の設置等の整備工事を平成14年1月にすませ、身近に見られるようとした。

皿よりは深いもの。）

近くに行かれた際には、是非とも見てください。実物を見ることができます。

府中町文化財保護審議会会長

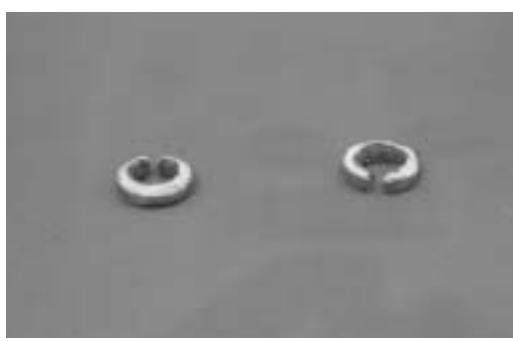
横田禎昭



上岡田古墳 整備工事前



上岡田古墳 整備工事后



金 環



土 師 器 碗

上岡田古墳出土品（いずれも歴史民俗資料館に展示中）

問い合わせ

教育委員会生涯学習課
2286-3272